



19歳となった今とこれまで

「じゅうく。」の卒業生ヘインタビュー

連載 No. **03** / 12
Date. 2021.06



01 近畿大学
総合社会学部
おおさき ゆめ
大崎 百芽 さん

進学

「じゅうく。」で頑張ったことは？

私が一番頑張ったことは、**受験勉強**です。最初の頃は勉強が嫌いで、勉強してもどのくらいできるようになったのかわからず、やる気がなかなか出ませんでした。ですが、周りのみんなが受験に真剣になっている姿を見て、「**自分も頑張らないといけない**」と思うようになりました。過去問を解き始めると、自分の学力が全然足りていないことに気づき、**できないことを本気で「悔しい」と感じるようになり**

ました。それでも毎日勉強を続け、だんだん点数が伸びていると実感できたときは「**もっと頑張ろう**」と思えました。**近畿大学に合格できたときは、とても嬉しかった**です。「これでしんどかった勉強生活から解放される」と思ったのですが、よく考えれば大学でも勉強しないといけないと最近気づきました。(笑)

今の自分に役立っていることは？

私は「じゅうく。」での受験勉強を通して、「**コツコツやり続けることの大切さ**」が身に染みてわかりました。毎日勉強することは本当に大変でしたが、それがあったからこそ自分に向いている勉強方法に気づくことができ、**一緒に頑張ってくれる人の存在のありがたさを知ることができました**。



02 高知工科大学
経済・マネジメント学群
くろいわ こゆき
黒岩 小雪 さん

進学

「じゅうく。」で頑張ったことは？

私は、学校推薦で高知工科大学を受験しました。「じゅうく。」では主に、**志願理由書の作成と面接対策**を行っていました。志願理由書では、どうしたらその大学で**学びたいという想いが伝わるか、どのように自分をアピール**したらいいかを考え、完璧なものにするために何十回も書き直しました。**面接対策は、「じゅうく。」の塾長と、ほぼ毎日行ないました**。提示されたデータを読み取り、

仮説を立て、自分の考えを述べるということは、慣れるまで時間がかかりとても難しいことでした。毎日できない自分と戦いながら頑張っていました。

今の自分に役立っていることは？

私は「じゅうく。」での3年間を通して、**挑戦することの楽しさ**を学ぶことができました。カナダでの海外研修や「シゴトフェス」というイベントに参加することを通して、新しい考え方や興味のあること、そして**新しい自分を見つけることができ、とても嬉しかった**です。初めてのことに挑戦するのはとても勇気がいることですが、**スタッフさんのサポートもあり、沢山のことに挑戦**することができました。現在は、大学で勉強しながらイベントの運営スタッフなどもしており、**新たな挑戦をしている**ところです。



03 四国旅客鉄道株式会社
まざき かほ
間崎 花帆 さん

就職

「じゅうく。」で頑張ったことは？

私は、自分に自信がなく消極的でしたが、**勇気を持って「じゅうく。」の海外研修やイベントなどに積極的に参加して、少しずつ自分に自信が持てるようになり**ました。また、海外研修に参加したことで「英語をもっと話したい!」と思うようになり、「じゅうく。」で外国の方とビデオ通話をする「オンライン英会話」を3年生の3月まで続けました。始めたばかりの頃は「完璧に話さなきゃ」という考

えが強かったのですが、今ではそれ以上に「伝えたい」という想いが大切なのだなと思っています。

今の自分に役立っていることは？

私は「じゅうく。」で、**大切な価値観を**教えてもらいました。以前は自分の思うようにいかないこと、**上手くいかないことを周りの環境のせい**にしていたのですが、「じゅうく。」でスタッフさんや友だち、大人の方と**沢山意見を交換しながら話すことで、「自分の力でこれからの未来は変えられる」ということを学び**ました。今では、過ごしている一瞬一瞬が自分の未来に繋がっていると考え、日々学びながら一つひとつの時間を大切に過ごしています。

いつでも見学できます

お問い合わせ先

町営塾「じゅうく。」
☎ 22-3163

「じゅうく。」
公式 facebook

See you next month!

季節の風景 6月

ジューンブライド



西洋では6月に結婚すると幸せになると言われていますが、由来には諸説あるそうです。一つは、結婚を司るローマ神話の女神ユノー（英語名はジュノー）が6月を守護し、家庭・女性・子どもの守護神であると言うことです。英語の「June（6月）」は、ユノーが6月を守護しているゆえの命名で、ユノーの祭礼も当時は6月1日に行われていました。そのために、6月に結婚するとユノーの加護で幸せになれると言われているのです。

その他、昔ヨーロッパでは3〜5月は農作業で多忙なため結婚が禁じられていて、6月に挙式する人が多かったことや、長い冬が明けて花が咲き始める時季で、世間一般に開放的で明るいムードが漂う良い気候であるなどの理由からと言われています。

しかし、日本の6月は梅雨の時季で、雨が多く多湿なことに加え、当時の結婚式場は空調設備などが整っていないかったために挙式をする人が少なかったのです。そのため、ブライダル業界が6月にも挙式するカップルが増えるように、ジューンブライドの言い伝えを広めたとされています。

今月の

座右の銘は「三方良し」と

「地域にあるものは全て観光資源」



▲ラジオのパーソナリティーの頃!!

この春、新しく四万十町観光協会事務局長に着任された兼森一将さんを紹介いたします。兼森さんの経歴がすごい!

広島県呉市のご出身で、広島市内の大学を卒業後、大手旅行代理店へ。約8年福岡市で勤務した後、広島支店で6年。そこから何とタレントに転身! 実は、高校生の頃からラジオのパーソナリティーをしていた兼森さん。元々、マスメディアの世界に行きたかったのだそうで、大学生の時には、若者向けのラジオ番組を持っていた。

たほど。そんな下地もあって、旅行会社社員からタレントへの転身は難しいことではありませんでした。多い時には、地元広島でラジオ番組を週6本、テレビ番組も週1本を持つまでに。「タ方のワイド番組のレポーターなどで広島県内各地を回るうちに、地域活動に興味が湧いてきました」

7年半ほどタレントとして活動した兼森さんは、今度は島根県松江市の観光協会で観光コーディネートになります。3年半で与えられたミッションを果たし、次

は鹿児島県錦江町で、町の総合戦略のブレインとして、過疎化対策・移住者誘致・空き家活用を手がけました。役割を終え、今度は岡山県玉野市へ。玉野市では旅行事業立ち上げのミッションを託されました。さらにさらに今度は山口県下関市の創業支援施設の管理運営を委託されている会社に請われ、空き店舗利活用に関わりまし



かねもり かずまさ
兼森 一将 さん

た。次々にミッションをこなしていく兼森さん。次なる仕事は、長崎県平戸市の観光協会。ここでは企画プロモーション課の係長として、その手腕をふるいました。

観光と地域活性化のあり方を模索し、学びながら、次々に実践していった兼森さん。座右の銘は「三方良し」と「地域にあるものは全て観光資源」。

「大手旅行会社が当時やっていたことは、お客さんを送り込むだけで、受け入れる地域のことはあまり考えない発地型。そうではなく、地域づくりのために観光をやっていくという着地型でないといけないと思っています」

観光と地域活性化ミッション請負人の兼森一将さんの、これまでの見聞と経験が四万十町で活かされようとしています。